

第41回 高橋記念賞

高橋記念賞は、故高橋愛次氏の功労を記念し、扶桑軽合金株式会社（現 株式会社アーレスティ）より寄贈された基金により、軽金属鋳物、ダイカスト、展伸材、二次合金および再生地金等の溶解・鋳造に関連する工業技術の進歩発展に功労のあった技能者に贈る。



稲葉 明彦 君
(株式会社UACJ押出加工小山)

稲葉明彦君は、1980年4月に古河アルミニウム工業株式会社（現 株式会社UACJ押出加工小山）に入社以来、38年間一貫してアルミニウムの溶解・鋳造に関わる業務に従事し、現在に至っている。1990年からは鋳型やフィルターユニットなどを整備する型整備に従事し、班長として活躍、その後、高い安全意識ならびに類まれなリーダーシップを発揮し、2003年に作業長、2005年に職場長に就任している。不稼働時間の削減、多能工化を精力的に行い、鋳造能力を向上させることにより鋳塊製造量の増産体制を確立し、鋳造課のみならずUACJグループへの鋳塊供給拠点構築に貢献している。現在は、溶解・鋳造だけではなく鋳塊のソーキング、切断、穴あけ加工の素材工程も統括している。また、職場長として職場の安全を最優先する文化・風土作りに貢献し、年間無災害を実現するとともに働きやすい職場作りに努めている。さらに長年培ってきた経験を活かして次期管理監督者の育成に尽力している。



野原 正美 君
(株式会社神戸製鋼所)

野原正美君は、1993年に株式会社神戸製鋼所に入社以来、技術開発本部の試作実験室に在籍し、約25年間一貫して、チタンやアルミニウムなどの軽金属の溶解鋳造技術開発に従事してきた。特に、チタン合金などの活性金属溶解に優れるコールドクルーシブル誘導溶解法を活用し、研究開発材や客先向けの試作材において、目標特性を満足する品質の造り込みに長年取り組み、安定溶解鋳造技術、成分狭幅制御技術などを構築した。なかでも、引抜連続鋳造における品質不良低減、溶解炉大型化の独自技術開発に携わり、チタン合金の普及、用途拡大につながる独自の溶解鋳造技術の確立は、特筆すべき成果である。こうした実績を評価され、兵庫県技能顕功賞を1回、文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞を2回、株式会社神戸製鋼所社長賞を7回受賞するなど、特殊溶解技術を牽引している。このように、チタンをはじめとした軽金属の溶解鋳造技術の発展に大いに貢献し、現在もその豊富な経験と高い技能を活かし、後進の指導育成にも尽力している。